『　天　下　取　り　』

元・新日鐵八幡製鐵所サッカー部　監　督
元・東福岡高等学校サッカー部　名コーチ
全国高校３冠・高校選手権２連覇の立役者

故　寺西　忠成　氏

〔1999年1月14日・2連覇の後、急逝；享年72歳〕

《名将になり得る４つの資質》～『名将のもとに名選手あり』

1　自己犠牲

大将は、まず自己を犠牲にせず兵に何かを求めることなかれ。監督として、すべてを犠牲にして『　Ｆｏｒ　Ｔｈｅ　Ｔｅａｍ　』たること。

2　先憂後楽

大将は、兵に先んじて楽をすべからく。選手に先立ち苦しみ、選手が楽しんだあと楽しむこと。

3　厚　　情

大将は、厚い心をもって兵を叱れ。されば選手は、理解する。モラルの原点である『厚情』は、選手にやる気を起こさせ、チームワークを作る。

4　自己研鑽

大将は、自己研鑽せよ。温故知新である。昔のことを調べて新しいことを知る。いろいろなことを修業する。修業で得たものをチームに還元する。奥義・極意の皆伝にあずからんとするならば、大変な修業が必要なり。極意こそ、『　Ｋｎｏｗ　・　Ｈｏｗ　』なのである。

《監督たる者のチーム作りのスキーム》

1　計画を立てる

年間・月間・週間・日別の計画を立てる。年間計画は、〔移行期〕:〔準備期〕:〔試合期〕の分類が一般的。移行期は、シーズン後の体をリラックス・リフレッシュさせる期間。準備期は、基礎技術・グループ戦術・チーム戦術を習得する期間。試合期は、トップコンディションで試合に臨む期間。昨今は、大会数が多いため、その計画作りは大変である。

2　チームのプレースタイルの確立

監督にとって最も大切なこと。「自分たちのサッカー」＝プレースタイル。監督・コーチ・選手が、十分に理解して、高い精度で運用することが勝利への道である。

①　隊　　形（フォーメーション）
②　攻守の方法（アタッキング　＆　ディフェンディング　システム）
③　攻撃の方法　　④　守備の方法

3　試合 ― 分析 ― 修正練習のリピート

『　Ｍ　－　Ｔ　－　Ｍ　　Ｍｅｔｈｏｄ　』

《一般的問題点》

①　分析不足　　②　修正練習メニューの策定能力不足　　③　修正メニュー実施能力不足

4　プレースタイルの座学

プレースタイルの確立のため、パンフレットを作成し、作戦板を使用して全員の理解を求める。プレースタイルの完成こそが優勝への道である。座学をした後、ピッチでの監督・コーチのデモンストレーションが大切である。また『ファンクショナルトレーニング』（ポジション別機能練習）も有効である。

5　基本の技術と戦術（ＢＡＳＩＣ　ＳＫＩＬＬ）の習得

チームのプレースタイルを１００％パフォーマンスするには、基本の技術と戦術の習得程度が、大変影響する。

『基本の技術・戦術の精度が高ければ高いほど、プレースタイルが芸術的になりますぞ！！』

6　練習のための練習とならない

練習の目的を的確に把握し、『考えるサッカー（シンキングサッカー）』をすることが大切。選手が、モチベーションを高めて練習に臨んでいることが大前提である。

7　門戸を開放すること

門戸を開き『 井の中の蛙 』とならず、広く知識を求めることが大切。特に、良きパートナーと良き師匠を持つことが効果的。最終的には、門戸である一流派を樹立する。すなわち、プレースタイルの奥義を極めることである。

8　大義名分を守る

組織がある限り、その組織が機能的である大前提は、大義名分の確立である。大義とは人として行うべき大切な道義であり、名分とは自分に伴う道義上の立場を言う。組織における役割分担は、すべからく大義名分の上にあるべきである。

9　補　　強

チャンピオンスポーツとして勝利に向かって進むとき、補強は避けて通れない道である。チームのプレースタイルの中に必要な選手を、年次別に、計画的に補強しなければならない。補強の優先順位は、技術的に同じ場合は**『ハート』**を優先して採用すべきである。

10　練　　習

練習は、『月月火水木金金』の、土・日のない７日間通しの練習である。雨の日も、風の日も、雪の日も行う。バーチャルオポネント（仮想敵）に対して、２倍も３倍も…たくさん行う。選手は、暇さえあれば、ボールとともにいることが大切である。

寺西忠成氏は、広島県の出身で、広島高等師範（現広島大）から八幡製鐵（現新日鐵八幡）に入社。当時、弱小だったサッカー部を率い『第 44 回　天皇杯全日本選手権大会・優勝』に導くなど、当時の日本リーグの中でもトップクラスのチームに育て上げた。理論派として知られ、『近代サッカー』を導入して、日本のサッカー界のレベルアップに大きく貢献した。1990 年からは東福岡高等学校サッカー部のコーチ・参謀として加わり、当時『全国大会出場』を最大目標と考えていた選手たちに対して、志和芳則監督とともに『天下を取る』ことを示唆し、1998 年全国高校３冠 ～ 1999 年全国高校選手権２連覇という偉業を成し遂げる原動力となった。　　連覇直後の、1999 年（平成 11 年）１月 14 日午後７時３分、暮れからの風邪をこじらせて急逝。享年 72 歳。

『天下取り』は、寺西氏のサッカーに取り組む姿勢を示した『座右の銘』である。

ご冥福をお祈りいたします。　　**【文責　香月少年サッカークラブ　代表/監督　永倉克哉】**